

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

|                                | 項目数              |
|--------------------------------|------------------|
| I. 理念に基づく運営                    | <u>11</u>        |
| 1. 理念の共有                       | 2                |
| 2. 地域との支えあい                    | 1                |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用          | 3                |
| 4. 理念を実践するための体制                | 3                |
| 5. 人材の育成と支援                    | 2                |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援          | <u>2</u>         |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応      | 1                |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援      | 1                |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント  | <u>6</u>         |
| 1. 一人ひとりの把握                    | 1                |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2                |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援              | 1                |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働    | 2                |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援      | <u>11</u>        |
| 1. その人らしい暮らしの支援                | 9                |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり        | 2                |
| <b>合計</b>                      | <b><u>30</u></b> |

|       |                |
|-------|----------------|
| 事業所番号 | 2570600284     |
| 法人名   | 社会福祉法人 華頂会     |
| 事業所名  | グループホームはるか     |
| 訪問調査日 | 2007年 11月 29日  |
| 評価確定日 | 2008年 1月 15日   |
| 評価機関名 | 社団法人 滋賀県社会福祉士会 |

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

作成日 2007年12月22日

## 【評価実施概要】

|       |   |
|-------|---|
| 事業所番号 | 2570600284                                  |
| 法人名   | 社会福祉法人華頂会                                   |
| 事業所名  | 社会福祉法人華頂会 グループホーム はるか                       |
| 所在地   | 525-0067滋賀県草津市新浜町153-2<br>(電話) 077-567-0073 |

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 社団法人 滋賀県社会福祉士会           |
| 所在地   | 520-2352 滋賀県野洲市富波乙681-55 |
| 訪問調査日 | 平成19年11月29日              |

## 【情報提供票より】平成19年11月15日記入

### (1) 組織概要

|                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| 開設年月日                  | 昭和・平成 15 年 4 月 7 日 |
| ユニット数                  | 2 ユニット             |
| 職員数                    | 15 人               |
| 利用定員数計                 | 15 人               |
| 常勤 9人 非常勤 6人 常勤換算 6.3人 |                    |

### (2) 建物概要

|      |               |
|------|---------------|
| 建物構造 | 木造り           |
|      | 2階建ての、1階～2階部分 |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                          |                |          |   |
|---------------------|--------------------------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額)            | 2,000円～55,000円           | その他の経費(月額)     | 15,000 円 |   |
| 敷金                  |                          |                |          |   |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有(250,000円)<br>無         | 有りの場合<br>償却の有無 | ○有/無     |   |
| 食材料費                | 朝食                       | 円              | 昼食       | 円 |
|                     | 夕食                       | 円              | おやつ      | 円 |
|                     | または1日当たり 1,500円(おやつ代を含む) |                |          |   |

### (4) 利用者の概要 ##### 現在

|       |           |      |      |    |      |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 15 名      | 男性   | 1 名  | 女性 | 14 名 |
| 要介護1  | 4 名       | 要介護2 | 7 名  |    |      |
| 要介護3  | 4 名       | 要介護4 | 0 名  |    |      |
| 要介護5  | 0 名       | 要支援2 | 0 名  |    |      |
| 年齢    | 平均 81.2 歳 | 最低   | 57 歳 | 最高 | 89 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |         |
|---------|---------|
| 協力医療機関名 | 琵琶湖療育病院 |
|---------|---------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはるかとは社会福祉法人華頂会が運営するグループホームとして平成15年4月に設立された。2ユニット15名の利用者で、閑静な住宅街の中にあり、琵琶湖や田園の風景が眺められ、近隣への散歩が危険なく出来る環境にある。自治会に加入して積極的に行事に参加したり、地域の人との介護相談に応じたりして、地域との交流が密になるよう努めている。職員の異動や離職は少なく、15名中9名が開設時からの職員であり、活発に意見や情報の交換が出来ることが安定したケア対応に繋がっている。管理者、職員は共に理念に基づき、利用者が安心して暮らせる場となるように取り組んでいる。華頂会グループの病院が近くであり、定期的な往診、受診で健康管理がされており、必要に応じて病院でのリハビリが実施されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

|       |  |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題、ケアサービスの分野で、食事の時の個別の支援については、支援の必要な利用者の横に職員が座り、さりげなく支援をしており、改善に向けての取り組みがされている。しかし、入浴の支援については、入浴時間帯、一人ひとりの入浴時間、入浴回数など、一人ひとりの希望を聞き、それに合わせた職員体制にしていく取り組みが求められる。サービス改善、サービスの質の向上を目指しての話し合いを期待したい。</p> |
|       | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者、職員の協働で行われている。自己評価に対して気づき、課題、改善計画への取り組みなどが挙げられていないが、今後は自己評価での気づき、課題、改善計画などについて、管理者、職員全員で話し合い、具体的にどのように取り組んでいくかを明らかにすることを期待したい。</p>   |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進委員会を定期的に開催することにより、地域包括支援センター、地域の民生委員、地域住民との連携が図られている。グループホームの利用待機者の状況を把握したり、地域の独居の高齢者宅に呼び出しコールを設置し見守りと緊急時の対応に備えたりしている。非常災害時に協力を得られるよう、会議で依頼している。</p>  |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の日々の暮らしの状況、健康状態、金銭出納などについて、「ホーム便り」として作成し、2ヶ月に1回、家族に届けている。近隣からの利用者の家族は頻りに訪問があり、訪問時に面談をして、家族の希望、要望などを聞き取っている。家族からの聞き取り情報は、月1回開催するケアプラン会議で話し合っている。</p>   |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、地域の行事や、老人会のゲートボールに参加している。また、近隣の喫茶店に行ったり、散歩の折に立ち話をしたり、菜園で地域の人が野菜の作り方などの指導や助言を得たり、利用者、職員とも地域との交流を大切に生活している。地域住民からは認知症の人への介護や対応の相談を受けることもある。</p>  |

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                           | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|------------------------------|----|---|---|------|---|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>           |    |   |   |      |   |
| <b>1. 理念と共有</b>              |    |   |   |      |   |
| 1                            | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 法人の理念及びホームのモットーをもとに誰にでもわかりやすい言葉で作直した理念「楽しく穏やかに暮らそう。暖かい家庭をつくろう」を掲げ、管理者・職員がケアにあたっている。   | ○    | これまでの「家庭的な環境の下で、その人らしい生活」という基本方針に加え、「地域住民との交流の下で」という地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を作りあげていくことが望まれる。                                |
| 2                            | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 朝の申し送り時に理念を言葉に出して読み上げることで管理者、職員が共に理念を確認し、意識付けをして、日々のケアに取り組んでいる。職員は理念を共有しており「家庭」ということを大切に思っている。家族のような関わり方や「待つ」姿勢を大切にしている。                      |      |   |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |    |   |   |      |   |
| 3                            | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 自治会に加入し、地域の行事や老人会のゲートボールに参加するように努力している。地域住民から認知症の人の介護・対応について相談を受けることがあり、アドバイスをしている。また、独居の隣人の緊急時の呼び出しコールをホームから民生委員に申し出て引き受けて、いつでも対応できるようにしている。 | ○    | 地域の独居高齢者、高齢者世帯の緊急時の呼び出しコールや見守りを民生委員と連携をとり積極的に引き受ける、また、地域住民から認知症の介護について相談をうけるなどを今後も継続して行い、地域の中で認知症サポーターの役割を果たしていくことを期待したい。 |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |    |   |   |      |   |
| 4                            | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 職員全員で自己評価を実施して、管理者がまとめた。職員が業務に関する意見、気づきなどを述べやすい関係作りがされており、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。  |      |   |
| 5                            | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一回、運営推進会議を開催して、地域包括支援センターと情報を共有を図る、民生委員から地域の情報を伝えてもらい利用者の生活に活かすなどしている。会議の中で議論した事項で地域の人々への介護保険サービス、認知症ケア等の相談事業がまだ推進できていない。                 | ○    | 運営推進会議の定期開催の継続が望まれる。また、認知症の介護相談、介護サービスについての相談、高齢者世帯、独居の方へのサポートなど地域包括センター、民生委員と協働して活動を発展させることを期待したい。                       |

| 外部              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|-----------------|----|--|--|------|--|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 地域包括支援センターと連携し、機会あるごとにサービスや利用待機者について相談をしたり、指導を受けている。   |      |  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |  |  |      |  |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている                              | 日々の生活の様子、健康状態、預かり金の報告などを担当の職員が手書きのホーム便りで2ヶ月に1回、郵送している。職員の異動についてはホーム便りでの報告だけでは充分とは言えず、訪問した家族に当日勤務の職員の名前がわかる工夫を模索中である。 |      |  |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 重要事項説明書で苦情申し立ての窓口を記載している。意見箱を設置しているが、その利用はほとんどない。しかし、職員は家族の意見、苦情が大切であることを認識しており、家族の訪問時や電話連絡時に意見を出してもらえるように働きかけている。   |      |  |
| 9               | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 開設以来、勤務している職員もおり、異動や離職は少ない。活発に職員間の意見交換が出来ていることが安定した利用者へのケアにつながっている。  |      |  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |  |  |      |  |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 常勤職員は資格取得の目標を持って、外部研修に積極的に参加している。また、それぞれの研修の情報は内部研修で常勤、非常勤を問わず、職員全員が共有している。職員が積極的に参加申し込みが出来るように管理者は働きかけている。          |      |  |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 職員各々が個人のネットワークを活用して交流を持っている。また、市内の5グループホームを集めた交流会を行政が実施して、情報交流会を行っている。   | ○    | 行政による交流会の開催ではなく、グループホーム職員の自主的な交流会を定期的開催し、他のグループホームの職員と交流することにより、ネットワーク作り、ケアについての勉強会、職員の悩みの解消など、サービスの質の向上を図るよう、期待したい。 |

| 外部                             | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応      |    |  |   |      |                                   |
| 12                             | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用開始前のお試し利用は設定していないが、契約前の見学時に利用予定者および家族と充分話をして、納得してもらっている。安心して利用開始できるように、今後はお試しの体験利用も考慮に入れた入所時の対応や、利用待機者への連絡、状態問い合わせなどの対応を検討中である。 |      |                                   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援      |    |  |   |      |                                   |
| 13                             | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                      | 管理者、職員ともに、介護するだけではなく人生の先輩として利用者から学ぶものは多いという思いをもっており、共に過ごし、学び、支えあうことでお互いの信頼関係を深めていく姿勢で対応している。                                      |      |                                   |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント    |    |  |   |      |                                   |
| 1. 一人ひとりの把握                    |    |  |   |      |                                   |
| 14                             | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 利用者がその人らしく暮らし続けることが出来るように日々の関わりの中で声掛けをして、言葉や表情、行動からその人の思いやしたいこと、行きたい場所などの希望を把握するように努力している。  |      |                                   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し |    |  |   |      |                                   |
| 15                             | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 定期的な月一回、ケアプラン会議を実施して、ケアプランのモニタリングをしている。会議には全職員が参加し、それぞれの意見や気づきを率直に話している。また、機会あるごとに利用者、家族の意向を聞き、その人のできること、したいことを見出し、介護計画を作成している。   |      |                                   |
| 16                             | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 3ヶ月に1回の見直し期間を設定しているが、変化が生じた判断されるときにはその都度、会議を開催し、計画の見直しを行っている。職員は常に利用者一人ひとりの「その人らしさ」を共有し、対応している。                                   |      |                                   |

| 外部                             | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|--------------------------------|----|---|--|------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援              |    |   |  |      |  |
| 17                             | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 医療連携体制により、週3回、医療機関からの往診と3週間に1回の受診、リハビリを実施しており、つきそいはホームの職員によって行われている。また、外出の一環として同一法人のデイサービスで実施される行事に出かけている。 |      |  |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働    |    |   |  |      |  |
| 18                             | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 本人及び家族から希望を聞き、受診している。特別な場合を除いて、家族が付き添うことはなく、職員が付き添って受診している。医療連携をとっている医師の往診と、3週間に1回の受診を受けている。               |      |  |
| 19                             | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期について方針を作成し、契約時に本人及び家族と話し合っている。  | ○    | 重度化や終末期の対応について方針はあっても、契約時だけでなく、状況に応じてたびたび話し合い、利用者本人や家族が安心して暮らせるように支援できる体制を整えていくことを検討することが望まれる。 |
| 1. その人らしい暮らしの支援<br>(1)一人ひとりの尊重 |    |   |  |      |  |
| 20                             | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 職員全員が利用者一人ひとりを尊重して接し、家族のように一緒に生活をする付き合い方を心掛けている。丁寧すぎず、ごく自然な言葉かけや、穏やかでさりげない態度で職員は対応していた。                    |      |  |
| 21                             | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 共同生活でのスケジュールは決められているが、利用者一人ひとりの希望にそって、ごく普通の家庭生活を送れるように支援している。  |      |  |

| 外部                                   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |   |   |      |  |
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 利用者と職員と一緒に買い物に行き、調理していた。食事時は職員が利用者の間に座り、必要な方にさりげなく支援していた。訪問時のメニューはコロッケだったが数で食事量を調整するのではなく大きさを調整しており、みんなが同じものを同じ量という満足感が少食の方にもみられた。              |      |  |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 入浴は月・水・金の午前中と決められている。入浴担当の職員2人体制にして全員が入浴できるようにしている。必要ならば、それ以外でも、入浴は可能である。   | ○    | 週3回、午前中の2～3時間が15人の利用者全員の入浴時間になっているが、一人15分程度と短時間の入浴になっている。利用者一人ひとりの希望を聞き、それに合わせてゆったりと入浴できるように、職員体制を作っていくことを期待したい。 |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |   |   |      |  |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 掃除、花の水遣り、菜園の手入れ、調理、食事の後片付けなど、一人ひとり出来る事を役割として持っている。食事の後片付けは希望者が多いので、曜日ごとの当番制にしている。   |      |  |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 買い物、ドライブ、近隣の喫茶店への外出、散歩などに出かけている。買い物は歩いていける範囲に商店がないので、車で行くことになってしまうが、職員は日常的な外出の機会を増やせるように心掛けている。   |      |  |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |   |   |      |  |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 玄関の施錠はしていない。センサーを取り付け人の出入りは解るが、玄関脇の喫煙所へ行く人、外出願望のある人への対応として職員が常時いる台所から玄関が見えるように鏡を設置して、確認できるように工夫している。  |      |  |
| 27                                   | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 防災訓練のマニュアルを作成し、月1回、防災管理責任者は設備、避難経路などの点検をしている。11月は消防署の指導での訓練を実施した。地域の人々へは運営推進委員会で、協力をお願いしている。喫煙される方への対応として消防署からの指導で、必ず喫煙所へ行って喫煙するようにし、安全を確保している。 |      |  |

| 外部                        | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |   |   |      |                                   |
| 28                        | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 同一法人、病院の栄養士が献立表を管理している。食事摂取量は記録しているが、全員完食するように一人ひとりの状態に応じて盛り付けなど工夫している。水分摂取には特に留意しており、1日1500ml程度は確保するよう努めている。                             |      |                                   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり   |    |   |   |      |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり            |    |   |   |      |                                   |
| 29                        | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には菊の鉢植えが置かれ、居間、台所などには季節の草花を飾り、季節感を出していた。自然の採光が充分あり広い廊下で、ゆったりしている。各居室には空気清浄機が設置されている。居間の一部が畳敷きになっており、仏壇が置かれ、お参りが出来たり、カーテンを引けば、くつろげる場となる。 |      |                                   |
| 30                        | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                    | フローリングと畳敷きの居室がある。使い慣れたなじみの家具が持ち込まれ、家族の写真や遺影がおかれている部屋もあった。家族が宿泊する特別な部屋はないが、居室で一緒に泊ることができる。1室のみ、夫婦部屋があり、ご夫婦で利用されていた。                        |      |                                   |